

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年1月19日（木）

2 確認箇所

- (1) 6号機タービン建屋
- (2) 6号機原子炉建屋北側

3 確認項目

- (1) 6号機タービン建屋滞留水の状況
- (2) 6号機高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機排気管除却工事の状況

4 確認結果の概要

(1) 6号機タービン建屋滞留水の状況について

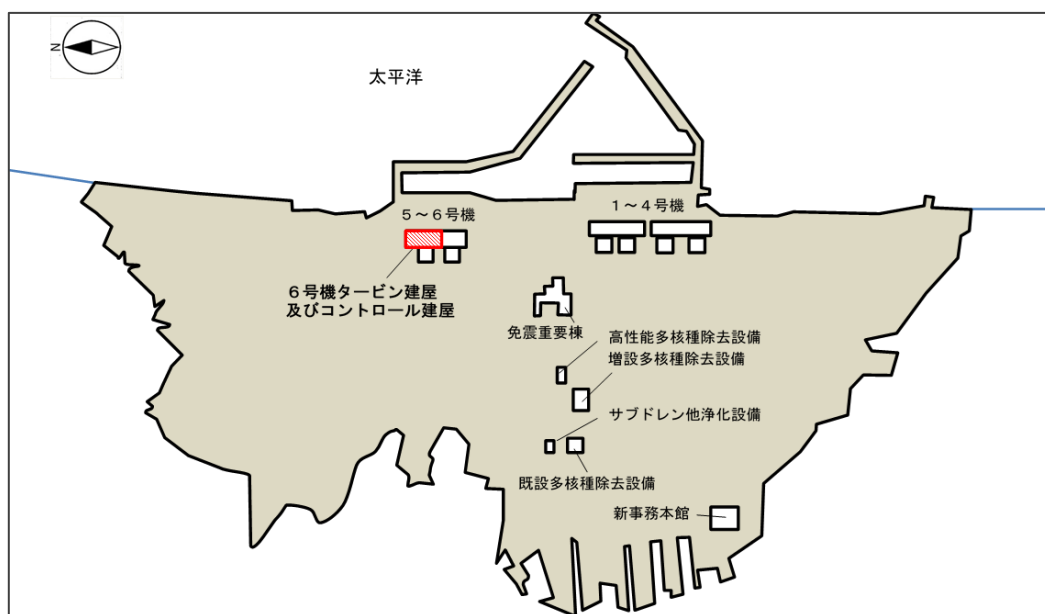
東日本大震災以降、5・6号機建屋周辺の地下水をくみ上げるための設備であるサブドレン設備が稼働を停止していたこともあり、5・6号機建屋地下には地下水が流入しており、東京電力はこれらの滞留水を移送し、処理設備で浄化した後に、発電所構内に散水している。

昨年3月、停止していた5・6号機サブドレン集水設備が復旧されたため、昨年8月に6号機タービン建屋滞留水の状況を確認し、復旧前と比較して20～30cm地下水水位が低下していたことを確認した。今回はその後の状況を確認した。（図1）（前回確認：[令和4年8月26日](#)）

- ・6号機タービン建屋地下階の滞留水の状況を確認したところ、前回確認時（令和4年8月26日）と比較して、50～60cm程度地下水水位が上昇していたが、東京電力が設定した管理値（床面＋約2m以下）内であった。なお、この区域は他の5・6号機の他の区域の滞留水を受け入れているため、水位が直接滞留水の増減を示すものではない。（写真1）

（写真2－1）（写真2－2）

- ・6号機タービン建屋地下階南西側において、前回確認時と同様に地下水が流入していた。（写真2－3）（写真2－4）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)

6号機タービン建屋地下階の滞留水の状況 (令和4年8月26日撮影)



(写真1-2)

6号機タービン建屋地下階の滞留水の状況 (令和5年1月19日撮影)



(写真2-1)

6号機タービン建屋地下階の滞留水の状況 (令和4年8月26日撮影)

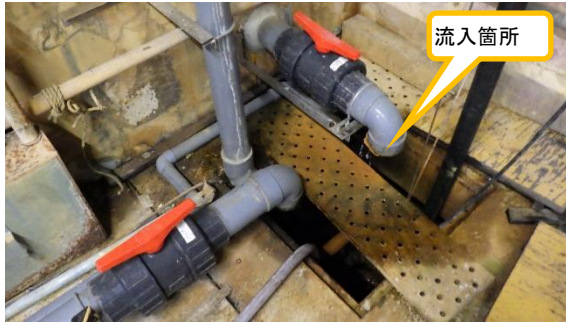
(写真1-1)の別角度。
階段が8～9段露出している。



(写真2-2)

6号機タービン建屋地下階の滞留水の状況 (令和5年1月19日撮影)

(写真1-2)の別角度。階段が5段露出している。



(写真 2-3)
地下水流入箇所の状況 (令和 4 年 8 月 26 日撮影)



(写真 2-4)
地下水流入箇所の状況 (令和 5 年 1 月 19 日撮影)

(2) 6号機高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機排気管除却工事の状況について

6号機原子炉建屋北側壁面に設置されている高圧炉心スプレイ系（以下「HPCS」という）ディーゼル発電機排気管は、腐食劣化により落下の可能性があることから、人身災害を防止するため2022年度中に撤去される予定であり、現場の状況を確認した。（図1）（前回確認：[令和4年7月7日](#)）

- ・現場では排気管の周囲に足場が組み立てられており、クレーンを使った作業が行われていた。
- ・周囲には撤去された排気管が養生された状態で保管されていた。（写真3）



(写真 3-1)
6号機原子炉建屋北側におけるHPCSディーゼル発電機排気管撤去の状況



(写真 3-2)
撤去された排気管の仮置き状況

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。